

第39回「議員と語り合い」報告書

総務環境常任委員会 (No.1)

開催日	令和 4年 11月 16日 16時00分 ~ 17時30分		
開催場所	議会棟4階 第3・4委員会室		
団体名	鹿児島県環境保全協会 隼人支部	参加人員	7人 (男 7人:女 0人)
出席議員	宮田 竜二、今吉 直樹、松下 太葵、藤田 直仁、松枝 正浩、 前島 広紀、有村 隆志、仮屋 国治、宮内 博		
役割分担	班 長 (宮田 竜二) 副班長 (今吉 直樹) 記録係 (前島 広紀)		
テーマ及び具 体的な内容	合併浄化槽と下水道のありかたについて 負担金・使用料の格差について 中山間地域 (下水道計画区域外) への新築補助について		

意見交換での主な意見等	◆は参加者の発言 ◇は議員の発言
	◆浄化槽整備の補助金を申請するが7月にはなくなってしまうので、予算を十分確保してもらいたい。
	◇当委員会で事前に勉強会を開いた時の執行部からの説明では、第1回目が4月から9月までで55%、その後2回目の募集を行うとのことでした。 市のホームページによると、令和4年度の上半期において7月の22日で交付申請の受付終了となっており、予算枠が不足しているのが現状である。
	◆市所有の単独浄化槽を積極的に合併浄化槽へ転換してほしい。
	◇令和3年時点で市が所有する浄化槽は490基であり、そのうち150基が単独浄化槽である。国の交付金を活用して市営住宅を中心に転換を図っている。議会からも働きかけていきたい。 ◇市民からの相談で、定期点検と法定点検が重なったとき、非常に負担が大きい。なぜ同じような点検を2度やらなければならないのか。

◆は参加者の発言 ◇は議員の発言

意見交換での主な意見等

- ◆定期点検にBOD点検が加えられているためである。
- ◇下水道と浄化槽設備の年間の費用の違いの大きさを改めて感じたところである。中山間地で高齢化が進み、年金だけでは費用が払えず滞っている実態はどうか。
- ◆無管理浄化槽が約2,000件のうち、約1,000件は経済的な問題で維持管理費が払えず、契約が継続できなくなっているのではないかと思われる。
- ◆中山間地への新築住宅に地域活性化として浄化槽補助金を復活できないか。
- ◇新築住宅に関しては、建築基準法で設置が義務付けられていることから補助金を考えていないとのことであるが、若者が定住できる効果的な施策の一つとして受け止めた。機会を通じて議会としても声を発信していきたい。
- ◇保全協会のチラシは、どれくらい作成し、どのような方法で配布しているか。
- ◆毎年10万枚作成し、県内の単独浄化槽保守点検業者をお願いして配布している。令和4年度からは、3万枚ほど増やして汲み取り世帯にも配布する。霧島市内での配布は約7,000枚である。
- ◇本市では、毎年度当初に自治公民館長会議がある。そこで自治会長さんに配布して知っていただくことを検討していただきたい。
- ◆組織づくりが大事ということで、法定協議会の設置を考えていて、県をお願いしている。県も令和5年度には立ち上げる方向で検討しているようであるので、その後、市での法定協議会立ち上げをお願いしたい。
- ◇業者の皆さんは、かねてからいろいろな問題を直接聞いておられるので、まずは皆さんがしっかり対応していただき、また議会も大事な問題ととらえ対応していきたい。